

## 医学部保健学科の教育理念・目標

医学部保健学科は、生命や人間の尊厳に基づく心豊かな教養を備え、高度な専門的知識・技能を修得し、広く社会に貢献できる資質の高い医療専門職の育成を教育理念とし、卒業生に以下の諸能力・資質を身につけることを教育目標としています。

1. 豊かな教養と高い倫理観を身につけた心豊かな人間性
2. 高度の専門的知識と技能を身につけ、自主性と創造性に富む柔軟な思考力
3. チームの一員として、地域医療に貢献できる能力
4. 生涯を通して、科学的探求の態度を継続できる能力
5. 専門性の確立を目指し、他領域の人々と連携できる学際的能力
6. 医療専門職者として幅広い社会活動や国際医療活動ができる能力

この教育目標を達成すべく、以下に挙げる3つのポリシーに基づいた学士課程教育を行います。

## 医学部保健学科のディプロマ・ポリシー

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

1. 各専攻において、看護学・理学療法学・作業療法学における解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識を修得している。
2. 各専攻において、看護・理学療法・作業療法を実践するための基本的技術を修得している。
3. 地域で自立した生活を営めるように、対象者を身体的・心理的・社会的な視点から評価し、適切な支援を行うための理論や技術を身につけている。
4. 医療・保健・福祉の連携・協働に必要な協調性やリーダーシップを身につけている。
5. 保健医療と社会の関係について主体的に考えることができる。
6. 高い倫理観と他者に共感できる心を身につけている。
7. グローバルな視点を持ち、地域社会および国際社会に貢献できる能力を身につけている。

と認められた者に対し、看護学専攻にあっては学士(看護学)、理学療法学専攻および作業療法学専攻にあっては学士(保健学)の学位を授与します。

## 医学部保健学科のカリキュラム・ポリシー

長崎大学のカリキュラム・ポリシーに沿って、保健学科学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 入門科目で、看護学・理学療法学・作業療法学の各専攻における解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識を学びます。
2. 専門基礎科目で、各専攻における看護・理学療法・作業療法を実践するための基本的技術を学びます。
3. 専門科目で、各専門領域の知識、技術をさらに専門的に学び、実践的な学修を行うとともに、高い倫理観と他者に共感できる心を養います。
4. 発展的専門科目で、それぞれの専門性をさらに深めるべく総合的な実習を行うとともに、科学的な研究法を学びます。
5. 他専攻や医学科との共修科目により、医療・保健・福祉の連携・協働のあり方を学ぶとともに、必要な協調性やリーダーシップを養います。
6. 医療と社会について学ぶ科目により、保健医療と社会の関係について主体的に考える力を養います。
7. 国際社会と保健医療に関する科目により、グローバルな視点、地域社会および国際社会に貢献できる能力を養います。

専攻ごとのカリキュラム・ポリシーを以下に示します。

## 看護学専攻のカリキュラム・ポリシー

1. 入門科目で、解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識とともに、医療専門職としての態度と多職種と協働する看護師の役割について学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
2. 専門基礎科目で、看護の対象と看護実践のための基礎的知識と技術を学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
3. 専門科目で、母性、成人、小児、精神、老年の各領域において臨地実習を行い、具体的な看護実践について学ぶとともに、高い倫理観と他者に共感できる心を養います。学修の到達度は、レポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
4. 発展的専門科目で、障害を持ちながら在宅で生活する療養者や家族への看護や、多職種と協働する中での看護の役割について学び研究を行います。また、地球規模および地方・地域の双方の視点から、人々の健康水準向上について学び、研究を行います。学修の到達度は、実習内容や研究内容に関するレポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
5. 他専攻との共修科目、医学科との共修科目で、保健・医療・福祉の分野における連携・協働の重要性と実践を学びます。学修の到達度は、学修内容をまとめたプレゼンテーションとディスカッションを通じて評価します。

## 科目に関する別表（看護学専攻）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	基礎的知識・理解	入門科目 グローバル化と健康	薬理学 微生物学 公衆衛生学 社会福祉	成人看護学総論 ケアマネジメント 成長発達看護学 精神保健学	在宅看護学Ⅰ・Ⅱ 地域看護学 家族看護学 リプロダクティブ・ヘルス リハビリテーション看護学
	専門的知識・技術	人体の構造と機能 栄養・代謝学 病理学 看護学概論 保健医療統計学	薬物療法と看護 臨床病態学Ⅰ・Ⅱ 病態と看護 加齢と健康学 小児と健康学 看護過程Ⅰ・Ⅱ 援助的人間関係論Ⅰ・Ⅱ	臨床遺伝学 フィジカルアセスメント 手術と看護 侵襲的治療看護方法論 療養支援看護方法論 救命救急論 老年看護学 認知症と看護 小児看護学 女性と家族の健康学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 継続看護 精神看護学Ⅰ・Ⅱ 健康教育学	看護コミュニケーション論
	具体的な看護実践、高い倫理観と共感性	臨床看護学実習Ⅰ	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 臨床看護学実習Ⅱ 小児看護学実習Ⅰ	臨床看護学実習Ⅲ 老年看護学実習 小児看護学実習Ⅱ 母性看護学実習 精神看護学実習	医療安全と看護 看護倫理 看護管理学 災害看護学 精神保健・メンタルヘルス実習 在宅看護学実習 地域看護学実習 専門性強化実習
	連携・協働	医療と社会Ⅰ・Ⅱ ボランティア活動 保健医療社会学概論	保健医療福祉システム論 リハビリテーション概論 人の成長と発達	成人看護学総合演習 看護の統合と発展 統合ケア論	国際保健学演習Ⅰ・Ⅱ 統合ケア実習 離島の暮らしと保健医療
	科学的態度			看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ	看護の科学的探究 卒業研究

## 理学療法学専攻のカリキュラム・ポリシー

1. 入門科目で、解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識とともに、健康や障害に関する基本的知識や現在の社会的課題について学び、リハビリテーションや理学療法の役割や意義について理解します。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
2. 専門基礎科目で、理学療法の対象となる疾患や障害の病態や医学的治療、一般的なリハビリテーションについて学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
3. 専門科目で、理学療法で行う検査・測定や治療の理論と基本的な技術を学びます。そして、臨床実習を通じて検査・測定や治療計画の立案などを体験し、これまでの学修内容を統合します。あわせて、医療人として必要な倫理観を養い、理学療法士としての資質を養います。学修の到達度は、レポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
4. 発展的専門科目で、障害者や高齢者に対する理学療法やその家族への支援のあり方について学びます。また、多職種と協働して行うチーム医療における理学療法の役割について学びます。さらに、理学療法に関する研究方法論を学び、理学療法分野に関連する先端的な研究を行います。学修の到達度は、実習内容や研究内容に関するレポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
5. 他専攻との共修科目、医学科との共修科目で、保健・医療・福祉の分野における連携・協働の重要性と実践を学びます。学修の到達度は、学修内容をまとめたプレゼンテーションとディスカッションを通じて評価します。

### 科目に関する別表（理学療法学専攻）

資質等	科目等	入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	基礎的知識・理解	入門科目	薬理学 微生物学 公衆衛生学 社会福祉		
	専門的知識・技術	人体の構造と機能 栄養・代謝学 病理学 保健医療統計学 人の発達と成長 リハビリテーション概論 理学療法学概論	機能解剖学Ⅰ・Ⅱ 機能解剖学実習 生理機能学Ⅰ・Ⅱ 生理機能学実習 運動学Ⅰ・Ⅱ 運動学実習 リハビリテーション医学 内科系障害とリハビリテーションⅠ・Ⅱ 運動器系障害とリハビリテーションⅠ・Ⅱ 神経系障害とリハビリテーションⅠ・Ⅱ 外科系障害とリハビリテーション 精神系障害とリハビリテーションⅠ 小児系障害とリハビリテーション 救急医学	機能障害科学 理学療法評価学 理学療法評価学実習 画像評価学 運動療法学 物理療法学 物理療法実習 生活技術学 生活技術学実習 義肢装具学 義肢装具学実習 理学療法管理学Ⅰ ペインリハビリテーション	カウンセリング技法
	具体的な理学療法実践、高い倫理観	基礎理学療法学実習Ⅰ	基礎理学療法学実習Ⅱ	地域理学療法学 理学療法管理学Ⅱ 運動器理学療法学 運動器理学療法実習 神経理学療法学 神経理学療法実習 心臓呼吸理学療法学 心臓呼吸理学療法実習 小児理学療法学 小児理学療法実習 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
	連携・協働	ボランティア活動 医療と社会Ⅰ・Ⅱ 保健医療社会学概論	保健医療福祉システム論	統合ケア論	統合ケア実習 離島の暮らしと保健医療 国際保健学実習
	科学的態度			理学療法学研究法	理学療法学セミナーⅠ・Ⅱ 卒業研究

作業療法学専攻のカリキュラム・ポリシー

1. 入門科目で、解剖学・生理学・病理学などの基礎的知識とともに、人間・環境・健康・リハビリテーションについての知識を深め、医療専門職としての態度と他職種と協働する作業療法士の役割について学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
2. 専門基礎科目で、作業療法の対象と作業療法実践のための基礎的知識と技術を学びます。学修の到達度は、主に筆記試験やレポートにより評価します。
3. 専門科目で、身体障害者、精神障害者、高齢者、障害児を対象とした臨床実習を行い、具体的な作業療法実践について学ぶとともに、医療人としての倫理観を養います。学修の到達度は、レポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
4. 発展的専門科目で、障害を持ちながら在宅で生活する障害者や家族への作業療法や支援、他職種と協働する中での作業療法の役割について学び研究を行います。また、作業療法に関する先端的な研究を行います。学修の到達度は、実習内容や研究内容に関するレポートやプレゼンテーション、ディスカッションを通じて評価します。
5. 他専攻との共修科目、医学科との共修科目で、保健・医療・福祉の分野における連携・協働の重要性と実践を学びます。学修の到達度は、学修内容をまとめたプレゼンテーションとディスカッションを通じて評価します。

科目に関する別表（作業療法学専攻）

資質等	科目等	入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	基礎的知識・理解	入門科目	薬理学 微生物学 公衆衛生学 社会福祉		
	専門的知識・技術	人体の構造と機能 栄養・代謝学 病理学 保健医療統計学 作業療法学概論 リハビリテーション概論 人の発達と成長	機能解剖学Ⅰ・Ⅱ 機能解剖学実習 生理機能学Ⅰ・Ⅱ 生理機能学実習 運動学Ⅰ・Ⅱ 運動学実習 リハビリテーション/医学 内科系障害とリハビリテーションⅠ・Ⅱ 運動器系障害とリハビリテーションⅠ・Ⅱ 神経系障害とリハビリテーションⅠ・Ⅱ 外科系障害とリハビリテーション 精神系障害とリハビリテーションⅠ・Ⅱ 小児系障害とリハビリテーション 救急医学	基礎作業学概論 基礎作業学技法Ⅰ・Ⅱ 治療作業学 作業療法評価学 画像評価学 身体障害作業治療学 身体障害支援特論 精神障害作業治療学 精神障害支援特論 発達障害作業治療学 発達障害支援特論 地域作業療法学 生活障害改善学 義肢装具学 作業療法管理学Ⅰ・Ⅱ	カウンセリング技法
	具体的な作業療法実践、高い倫理観		作業療法評価学実習	身体障害作業治療学実習 精神障害作業治療学実習 発達障害作業治療学実習 生活障害改善学実習 義肢装具学実習 基礎作業療法実習 地域作業療法実習 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
	連携・協働	ボランティア活動 医療と社会Ⅰ・Ⅱ 保健医療社会学概論	保健医療福祉システム論	統合ケア論	統合ケア実習 離島の暮らしと保健医療 国際保健学実習
	科学的態度				作業療法学セミナー 作業療法学研究法 卒業研究

## 医学部保健学科のアドミッション・ポリシー

保健学科は入学者に以下の資質・素養を求めます。

1. 専門科目の学修の基盤となる高等学校卒業程度の知識・技能・理解が充実している。
2. 対人関係を構築するために必要なコミュニケーション能力がある。  
実習では患者さんやその家族との間に良好な信頼関係を構築する必要があることから、非言語的要素を含むコミュニケーション能力を重視します。そのため全ての入学試験に面接を課します。
3. 専門的な学修に必要な基礎的な論理的・批判的思考力や判断力、表現力がある。
4. 主体的に学修を継続する態度と意欲がある。
5. 基礎的な倫理性と、他者への共感性や協調性、リーダーシップを持つ。
6. 国際社会や地域社会における保健への関心がある。
7. 国際的な学術文献の講読に必要な基本的な英語読解力がある。  
最新の科学的根拠を収集するために必要な英語読解力の基礎が養われていることを重視します。そのため前期日程と外国人留学生入試では個別試験で英語、学校推薦型選抜Ⅱおよび社会人入試では小論文で英語の問題を課します。

選抜方法に関する別表（求める資質等の評価方法とその比重(特に大きい比重:◎, 大きい比重:○)）

選抜方法等		求める資質等 (学力の3要素)	基礎学力 (知識・技能)	コミュニケーション能力 (思考力等) (主体性等)	思考力・判断力・表現力 (思考力等)	態度・意欲 倫理性・共感性 協調性・リーダーシップ 社会的関心 (思考力等) (主体性等)	英語読解力 (知識・技能) (思考力等)
一般選抜	前期日程	共通テスト	◎		○		○
		個別学力検査			○		◎
		調査書					○
		面接			◎		◎
学校推薦型選抜Ⅱ	共通テスト	◎			○		○
	小論文				◎		○
	調査書	○				○	
	推薦書					○	
	志望理由書					○	
	面接			◎		◎	
外国人留学生選抜	日本留学試験	◎					
	個別学力検査				○		◎
	面接			◎		◎	
社会人選抜	小論文				◎		○
	面接			◎		◎	